



株式会社シー・エス・ランバー

東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
証券コード 7808

2020年5月期決算説明会


2020年7月29日



1. 当社の概要
2. 2020年5月期決算概要
3. 2021年5月期業績予想
4. 中期経営計画2022の取組状況
5. 参考資料

Customer Satisfaction through Lumber

木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

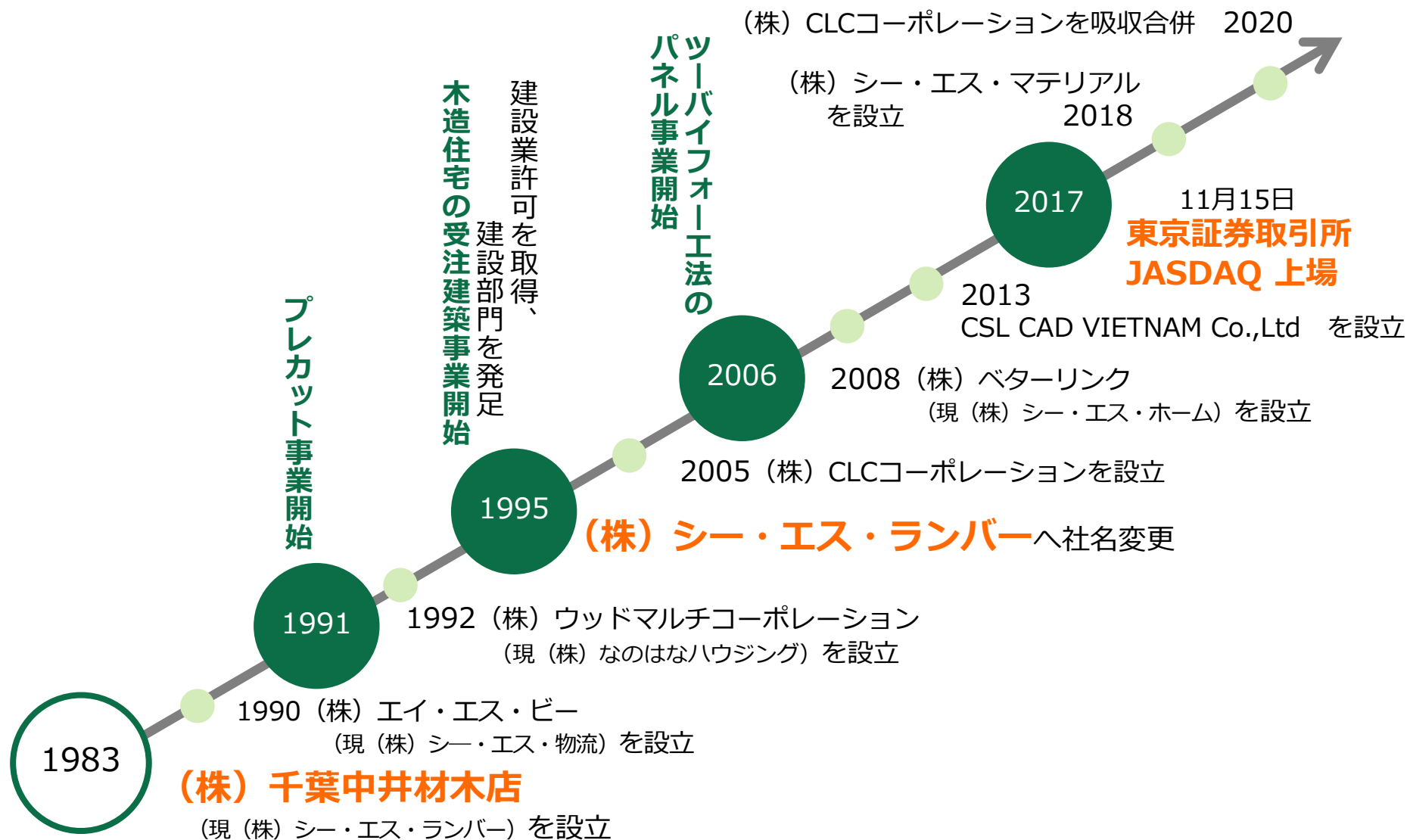
会社名	株式会社シー・エス・ランバー	 <p>幕張本郷 本社</p>
本社所在地	千葉県千葉市花見川区幕張本郷一丁目16番3号	
代表者	代表取締役社長 中井 千代助	
設立	1983年4月1日	
資本金	522百万円	
事業内容	<p>1:プレカット事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 在来軸組工法における設計、木材のプレカット加工及び販売 ● ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売 <p>2: 建築請負事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 木造住宅・大型木造施設の建築請負 <p>3: 不動産賃貸事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産賃貸・管理 <p>4: その他事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産の販売 	
従業員数	連結 329名 他に臨時従業員 90名	

(2020年5月末現在)

シー・エス・ランバーのあゆみ



木材を熟知する材木店から、木造建築のトータルサービス企業へ



1. 当社の概要
2. 2020年5月期決算概要
3. 2021年5月期業績予想
4. 中期経営計画2022の取組状況
5. 参考資料

2020年5月期 決算概要



プレカットを中心とする原価低減努力と不動産賃貸の伸長で増益を確保

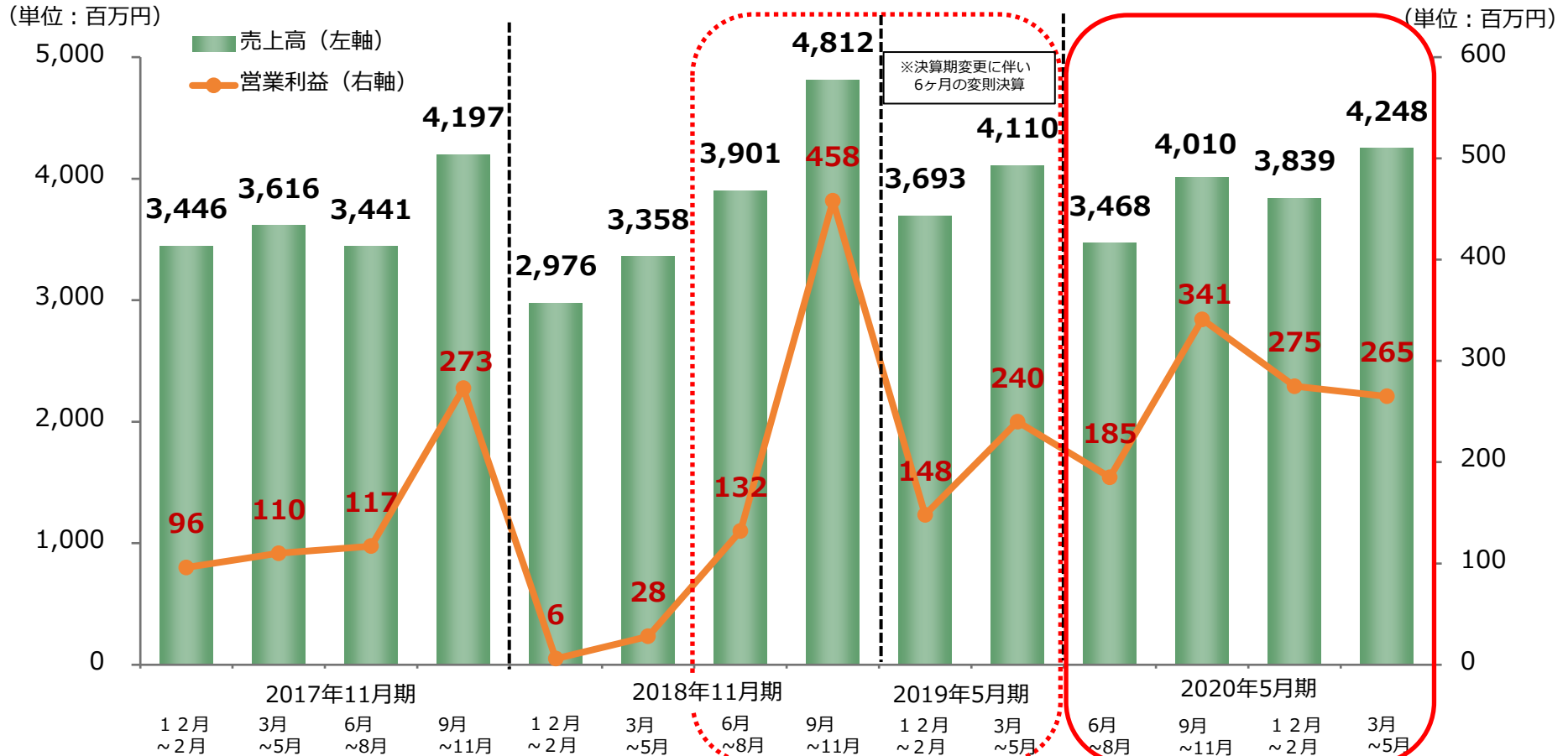
単位：百万円	前年同期間 ※ (2018年6月～2019年5月)		2020年5月期 (2019年6月～2020年5月)			
	実績		実績		前年同期間比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	16,518	100.0%	15,565	100.0%	△ 953	△ 5.8%
プレカット	12,658	76.6%	12,328	79.2%	△ 329	△ 2.6%
建築請負費	4,333	26.2%	3,750	24.1%	△ 583	△ 13.5%
不動産賃貸	407	2.5%	536	3.4%	128	31.6%
その他	751	4.6%	213	1.4%	△ 538	△ 71.6%
粗利益	3,090	18.7%	3,277	21.1%	187	6.1%
プレカット	2,231	13.5%	2,485	16.0%	253	11.4%
建築請負	427	2.6%	356	2.3%	△ 71	△ 16.7%
不動産賃貸	333	2.0%	412	2.7%	78	23.5%
その他	102	0.6%	31	0.2%	△ 70	△ 69.1%
販売費及び一般管理費	2,111	12.8%	2,209	14.2%	97	4.6%
営業利益	979	5.9%	1,068	6.9%	89	9.1%
プレカット	444	2.7%	581	3.7%	137	30.9%
建築請負	134	0.8%	48	0.3%	△ 86	△ 64.3%
不動産賃貸	280	1.7%	369	2.4%	88	31.7%
その他	60	0.4%	6	0.0%	△ 54	△ 89.6%
経常利益	918	5.6%	1,026	6.6%	107	11.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	553	3.4%	638	4.1%	84	15.3%

※2019年5月期は期間6ヶ月間の変則決算のため、前年同期間は2018年11月期の第3・4四半期（2018年6月～11月）及び2019年5月期の第1・2四半期となる

2020年5月期 四半期業績推移



プレカットの受注平準化と安定化を推進し、季節性を軽減



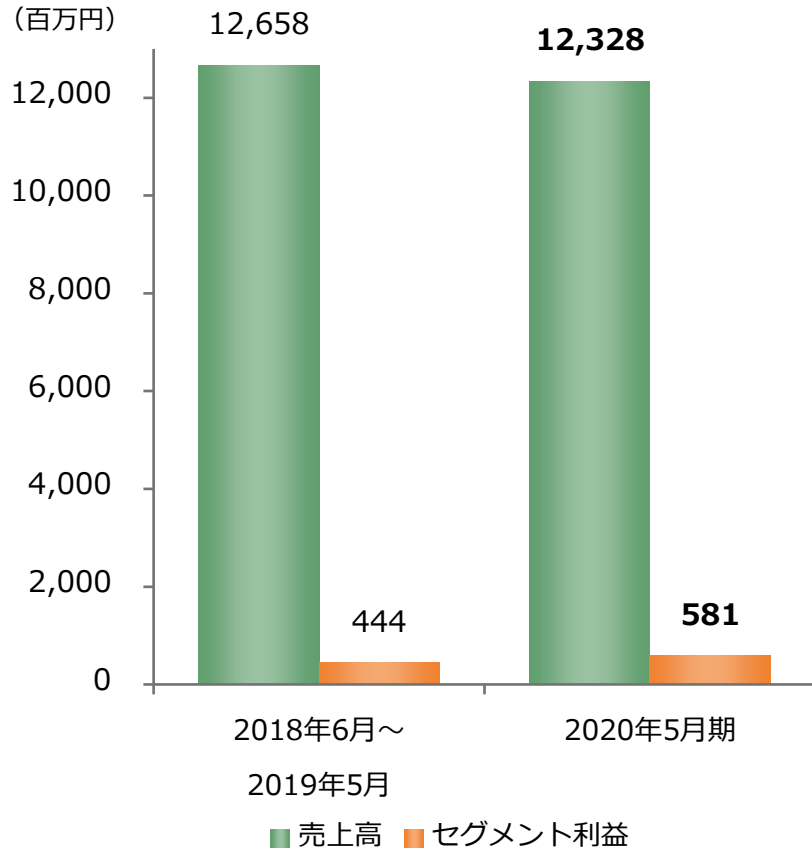
- ・2018年11月期は、上期では材料費の値上がりが価格に転嫁できず業績が振るわなかったが、下期は逆に価格転嫁が進み、また上期の反動などから受注に成功し、売上・利益を伸ばした。
- ・2019年5月期は、決算期変更に伴い6ヶ月の変則決算。通常は閑散期にあたるが、消費税増税前の駆け込み需要があったとみており、堅調な業績となった。
- ・2020年5月期は、上期においては、消費税増税前の駆け込み需要の反動減を懸念したが、実際には通常通り案件を獲得することができ、下期においては、通常は閑散期でありながらも、営業・製造・配送の強化・効率化で事業の底上げを図ることができた。

2020年5月期 プレカット事業（前年同期間との比較）



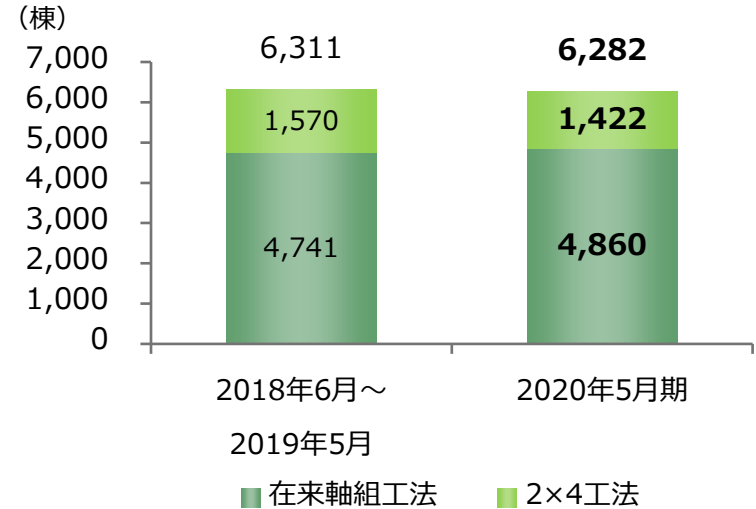
減収なるも、価格交渉、工場生産効率化・配送方法改善（※）などにより利益率上昇。2×4工法の出荷が減少しており、営業強化中

売上高・セグメント利益

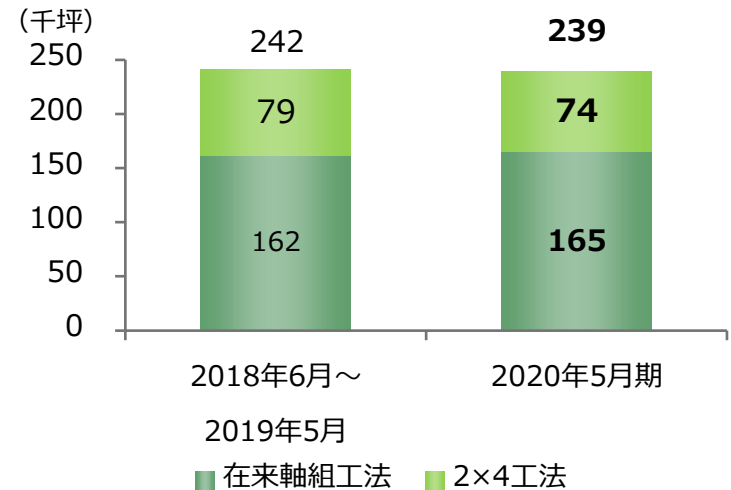


※歩留まり徹底の材木購入、工程上の無駄排除による生産性向上、新規先開拓や利幅確保、材料費削減、一括配送によるトラック台数削減や1台一日二便体制、など

出荷棟数



出荷坪数

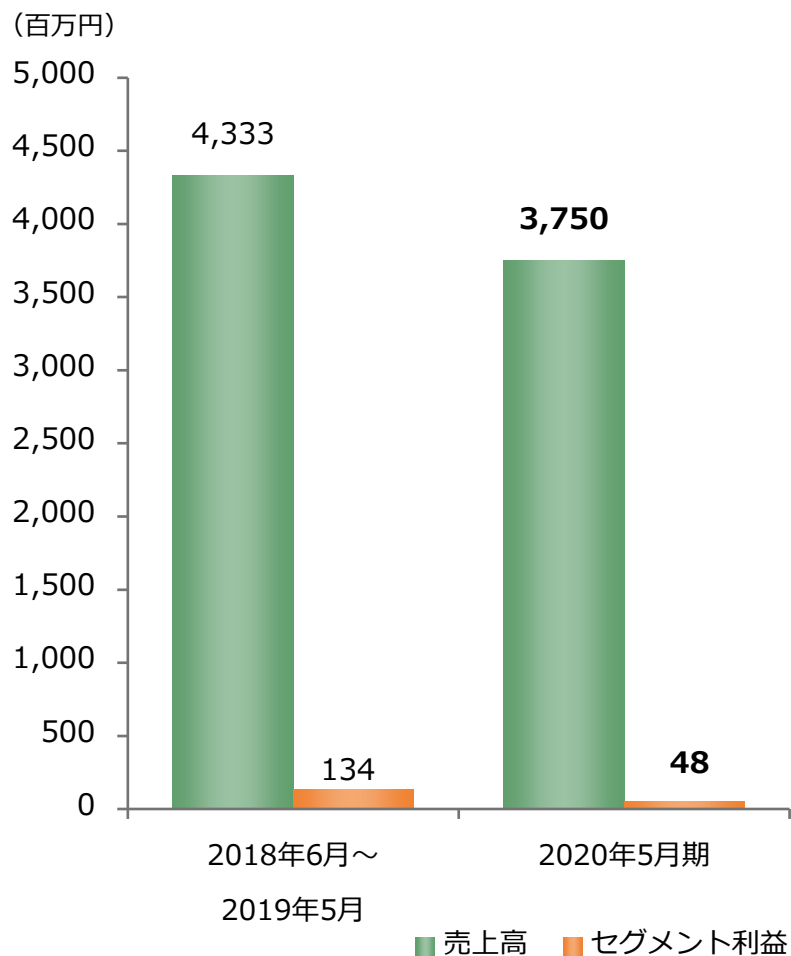


2020年5月期 建築請負事業（前年同期間との比較）

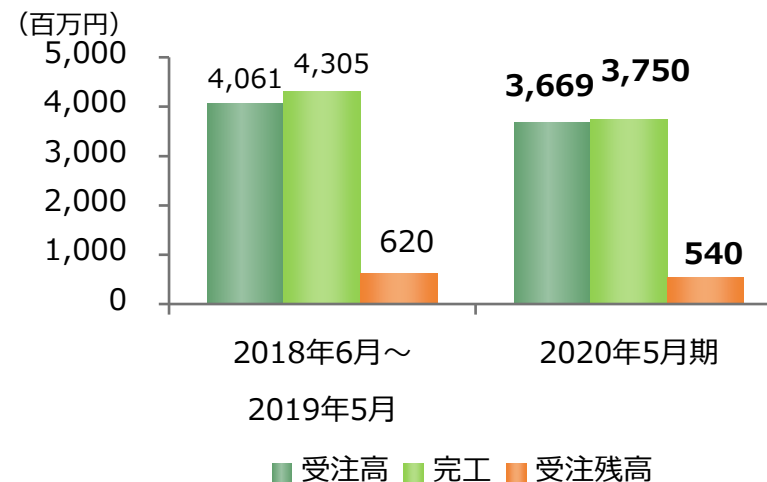


施工ミスの発生などにより大幅に減収減益。2月より新マネジメント体制がスタートしており、業績改善中

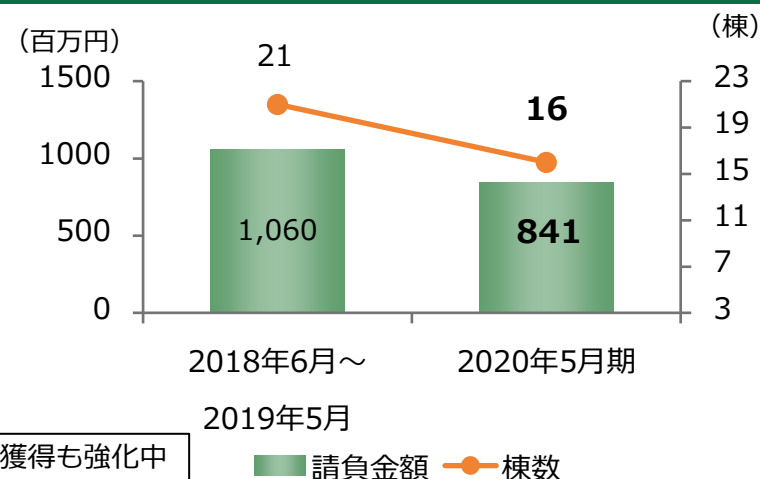
売上高・セグメント利益



受注・完工・受注残



大型(50坪以上)木造住宅・施設



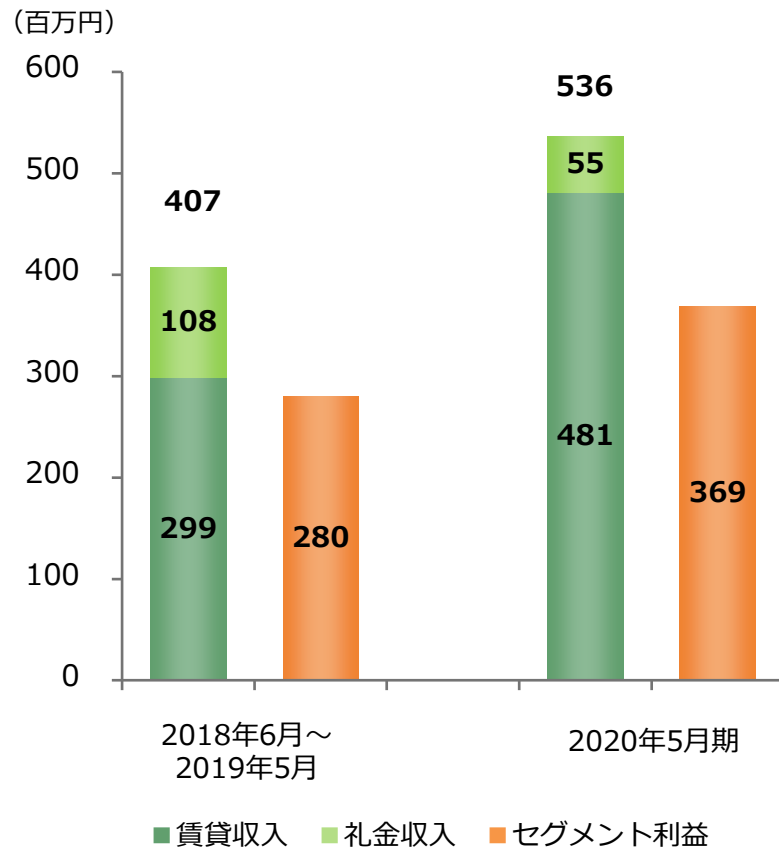
大型物件の獲得も強化中

2020年5月期 不動産賃貸事業（前年同期間との比較）



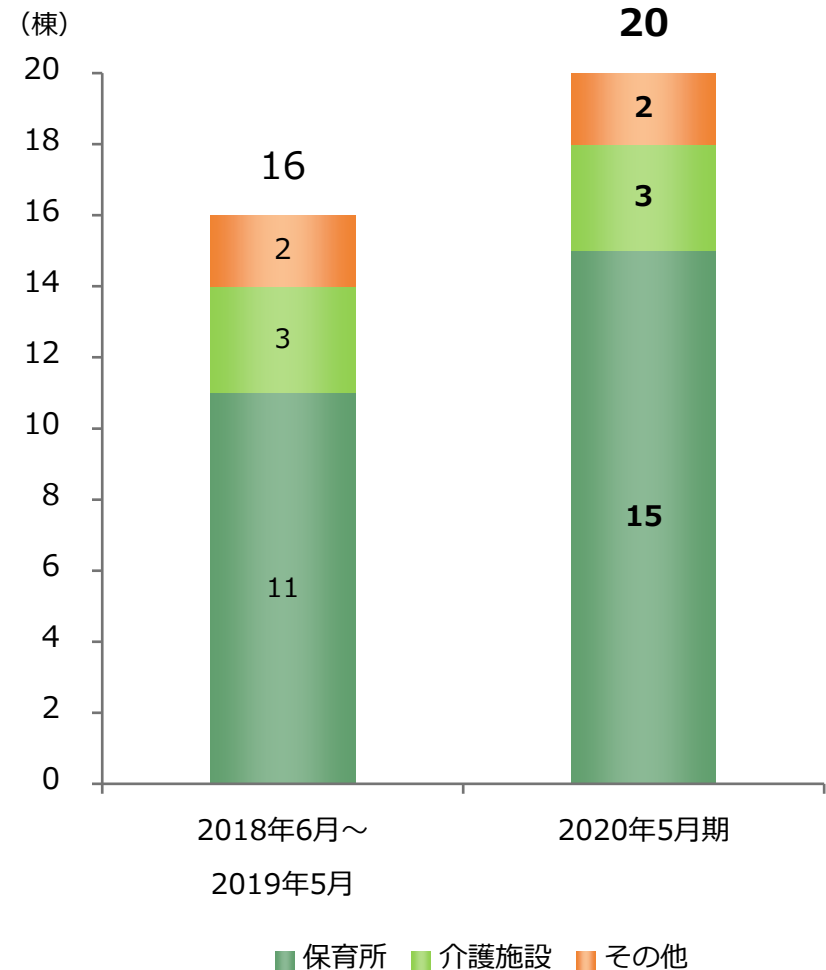
2020年4月に新規の保育所が4か所開所。2021年4月開所に向けて引き続き案件開発中

売上高・セグメント利益



貸貸収入・礼金収入の推移は、37ページもご参照

賃貸及び管理棟数

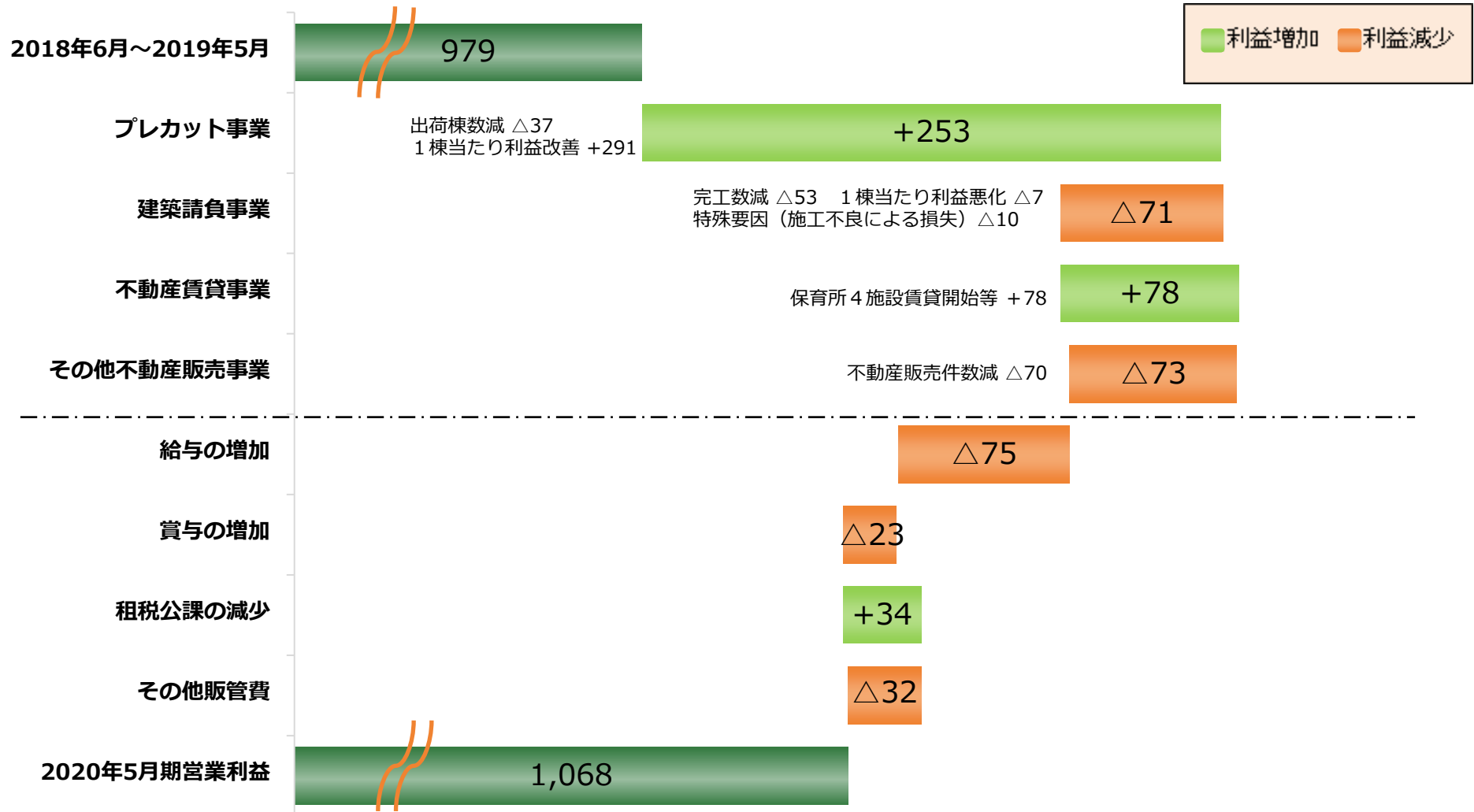


2020年5月期 営業利益の増減（前年同期間との差）



プレカット・不動産賃貸が牽引し、前年同期間比89百万円増益

（単位：百万円）



2020年5月期 貸借対照表



単位：百万円	2019年5月期		2020年5月期			
	期末実績（2019年5月31日）		期末実績（2020年5月31日）		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	5,382	40.0%	6,048	41.4%	666	12.4%
現金及び預金	1,748	13.0%	2,312	15.8%	563	32.2%
受取手形及び売掛金	2,370	17.6%	2,599	17.8%	229	9.7%
販売用不動産	411	3.1%	364	2.5%	△ 47	△ 11.5%
仕掛品	347	2.6%	269	1.8%	△ 78	△ 22.5%
原材料及び貯蔵品	333	2.5%	338	2.3%	5	1.5%
その他	170	1.3%	164	1.1%	△ 6	△ 3.6%
固定資産	8,072	60.0%	8,576	58.6%	504	6.2%
有形固定資産	7,444	55.3%	7,988	54.6%	544	7.3%
無形固定資産	166	1.2%	152	1.0%	△ 14	△ 8.9%
投資その他の資産	460	3.4%	435	3.0%	△ 25	△ 5.5%
資産合計	13,454	100.0%	14,625	100.0%	1,170	8.7%
流動負債	5,639	41.9%	6,108	41.8%	468	8.3%
支払手形及び買掛金	2,678	19.9%	2,845	19.5%	167	6.2%
短期借入金	1,459	10.8%	1,113	7.6%	△ 346	△ 23.8%
1年以内返済予定の長期借入金	317	2.4%	701	4.8%	383	121.0%
リース債務	190	1.4%	206	1.4%	16	8.5%
未払金	365	2.7%	410	2.8%	44	12.3%
その他	628	4.7%	832	5.7%	203	32.4%
固定負債	5,066	37.7%	5,181	35.4%	114	2.3%
長期借入金	3,986	29.6%	4,178	28.6%	191	4.8%
リース債務	634	4.7%	577	3.9%	△ 57	△ 9.0%
その他	445	3.3%	425	2.9%	△ 20	△ 4.5%
負債合計	10,706	79.6%	11,290	77.2%	583	5.4%
株主資本合計	2,676	19.9%	3,277	22.4%	600	22.5%
純資産合計	2,747	20.4%	3,335	22.8%	587	21.4%
負債純資産合計	13,454	100.0%	14,625	100.0%	1,170	8.7%

有形固定資産の増加
544百万円は、
2020年4月開園の
保育所4物件の取得
によるもの

2020年5月期 キャッシュフロー



営業活動によるキャッシュフローにより、現金及び現金同等物は5.6億円増加し、期末残高22.7億円

単位：百万円	前年同期間実績 (2018年6月～2019年5月)	2020年5月期実績
営業活動によるキャッシュフロー	1,071	1,401
投資活動によるキャッシュフロー	△ 2,306	△ 775
財務活動によるキャッシュフロー	1,382	△ 62
現金及び現金同等物の増減額	146	563
現金及び現金同等物の期首残高	1,567	1,714
現金及び現金同等物の期末残高	1,714	2,277

単位：百万円	前年同期間実績 (2018年6月～2019年5月)	2020年5月期実績
設備投資	2,331	787
減価償却費	378	407

1. 当社の概要
2. 2020年5月期決算概要
3. **2021年5月期業績予想**
4. 中期経営計画2022の取組状況
5. 参考資料

2021年5月期の予想ですが、4月以来新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発令によって、外出自粛やお取引先様の営業自粛などが発生しました。

それが影響して、第一四半期については、プレカット事業・建築請負事業・その他不動産販売事業におきまして、受注高の減少及びそれに伴う売上高・利益の減少を見込んでおります。

しかしながら、第二四半期以降については、中期経営計画の各施策の効果が出てくる事に加えて、コロナ禍後には新たな事業機会も生まれる事が想定されますので、それを捉えるべくしっかり対応してまいります。

2021年5月期 業績予想



単位：百万円	2020年5月期 実績		2021年5月期 予想		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比
売上高	15,565	100.0%	15,410	100.0%	99.0%
プレカット	12,328	79.2%	12,201	79.2%	99.0%
建築請負	3,750	24.1%	4,117	26.7%	109.8%
不動産賃貸	536	3.4%	600	3.9%	112.0%
その他	213	1.4%	340	2.2%	159.4%
粗利益	3,277	21.1%	3,326	21.6%	101.4%
プレカット	2,485	16.0%	2,368	15.4%	95.3%
建築請負	356	2.3%	412	2.7%	115.9%
不動産賃貸	412	2.7%	459	3.0%	111.4%
その他	31	0.2%	49	0.3%	157.2%
営業利益	1,068	6.9%	1,089	7.1%	101.9%
プレカット	581	3.7%	538	3.5%	92.7%
建築請負	48	0.3%	97	0.6%	203.5%
不動産賃貸	369	2.4%	400	2.6%	108.3%
その他	6	0.0%	9	0.1%	157.2%
経常利益	1,026	6.6%	1,042	6.8%	101.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	638	4.1%	640	4.2%	100.4%

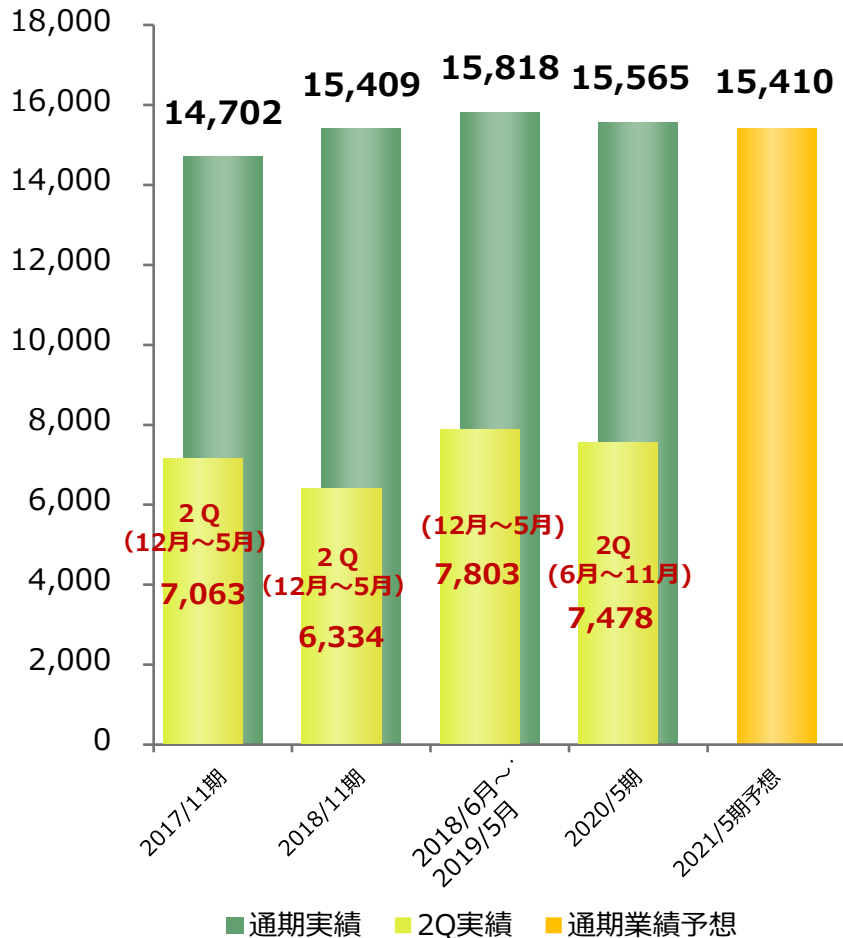
2021年5月期業績予想 業績推移



2021年5月期の営業利益は、前期並みの水準を予想

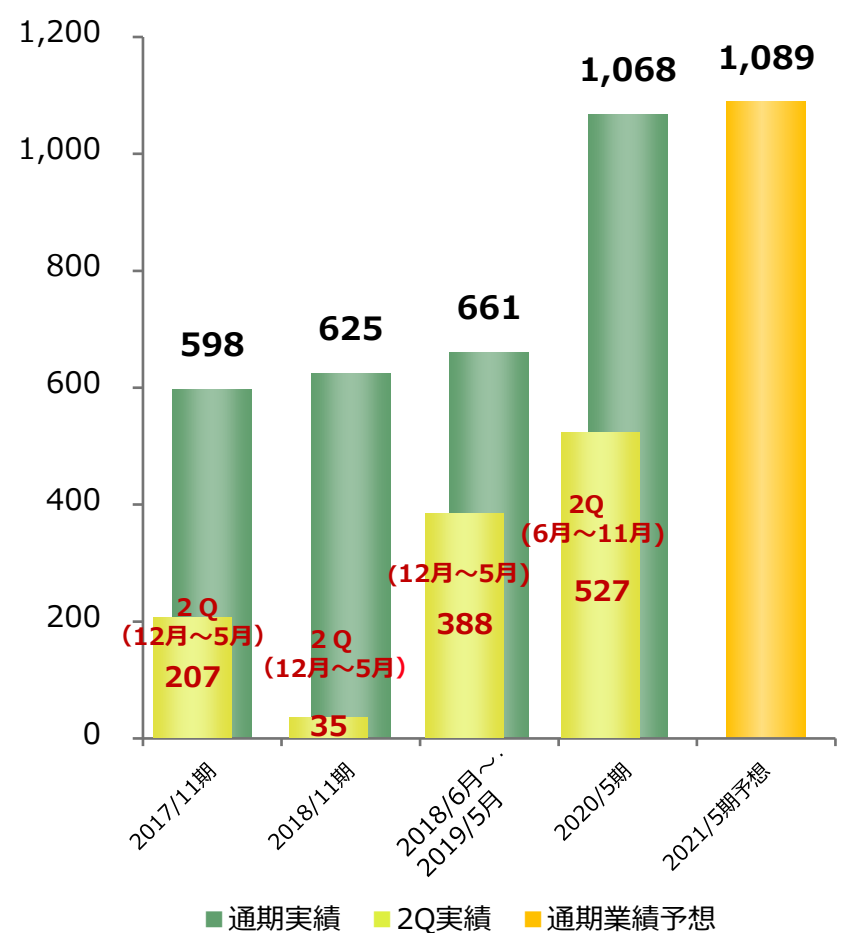
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



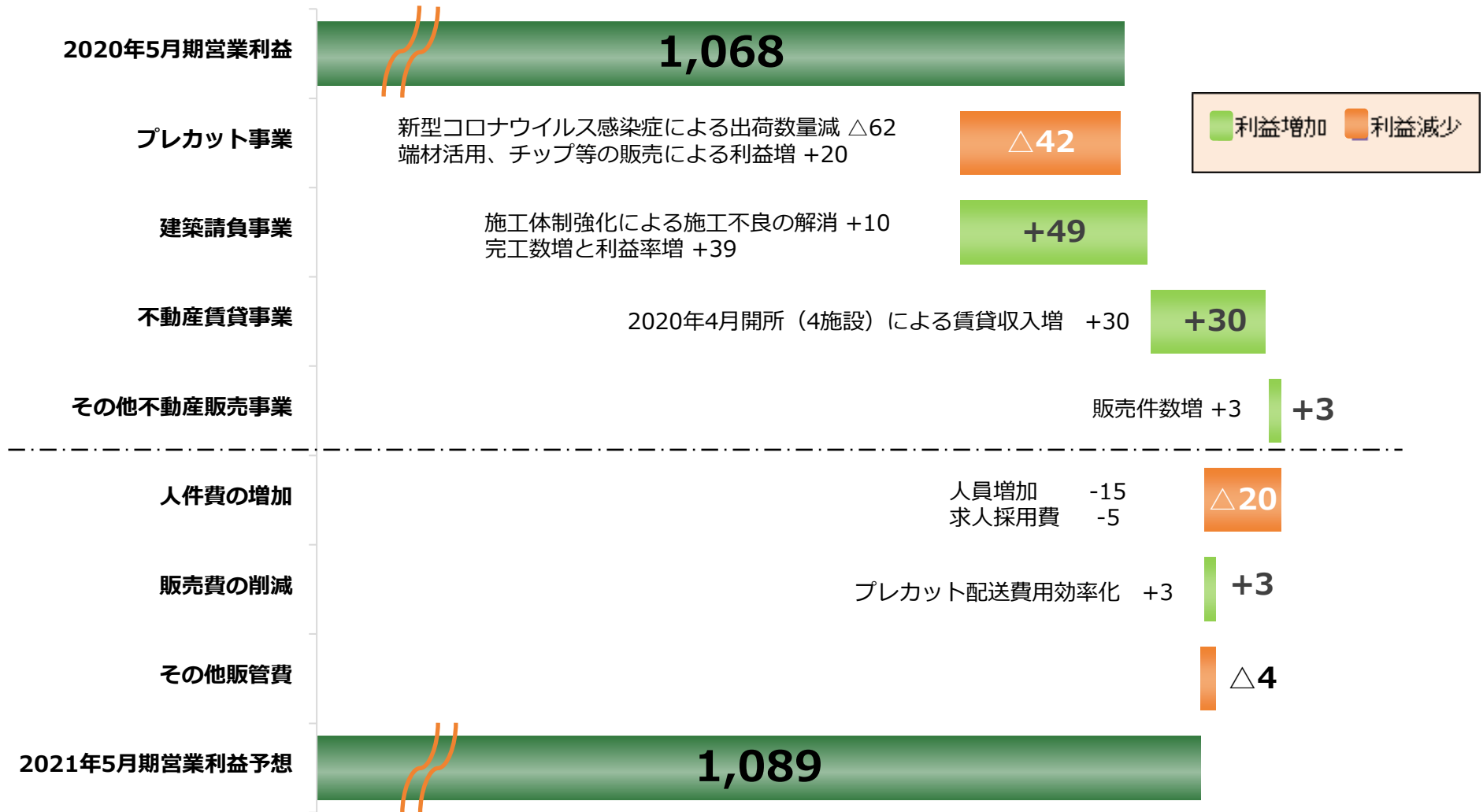
※2018年6月～2019年5月は、特殊要因（消費税増税駆け込み需要効果）を除く値で読み替えを実施
 ※決算期の変更に伴い、2020年5月期から第2四半期の期間が6月～11月となるもの

2021年5月期業績予想 営業利益予想分析



主に建築請負の業績改善と不動産賃貸の伸長により、増益を見込む

(単位：百万円)

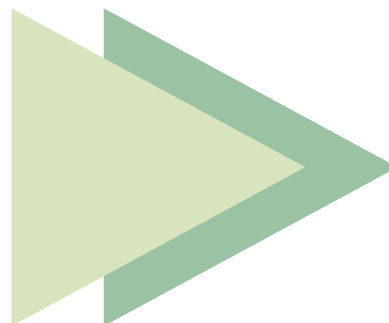


2021年5月期の配当は、2020年5月期と同様50円を予想

配当政策の基本方針

将来の事業展開と
経営体質強化に必要な
内部留保の確保

継続性・安定性
(配当性向20%を目安)



経営成績に応じた
配当の実施

配当金額

2019年 5月期 (6ヶ月決算)	
1株当たり年間配当金	: 22円 (期末22円)
2020年 5月期 (12ヶ月決算)	
1株当たり年間配当金	: 50円 (期末50円)
2021年 5月期 (12ヶ月決算)	
1株当たり年間配当金予想	: 50円 (期末50円)

1. 当社の概要
2. 2020年5月期決算概要
3. 2020年5月期業績予想
4. 中期経営計画2022の取組状況
5. 参考資料

シー・エス・ランバーグループ社是

Customer Satisfaction through Lumber 木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

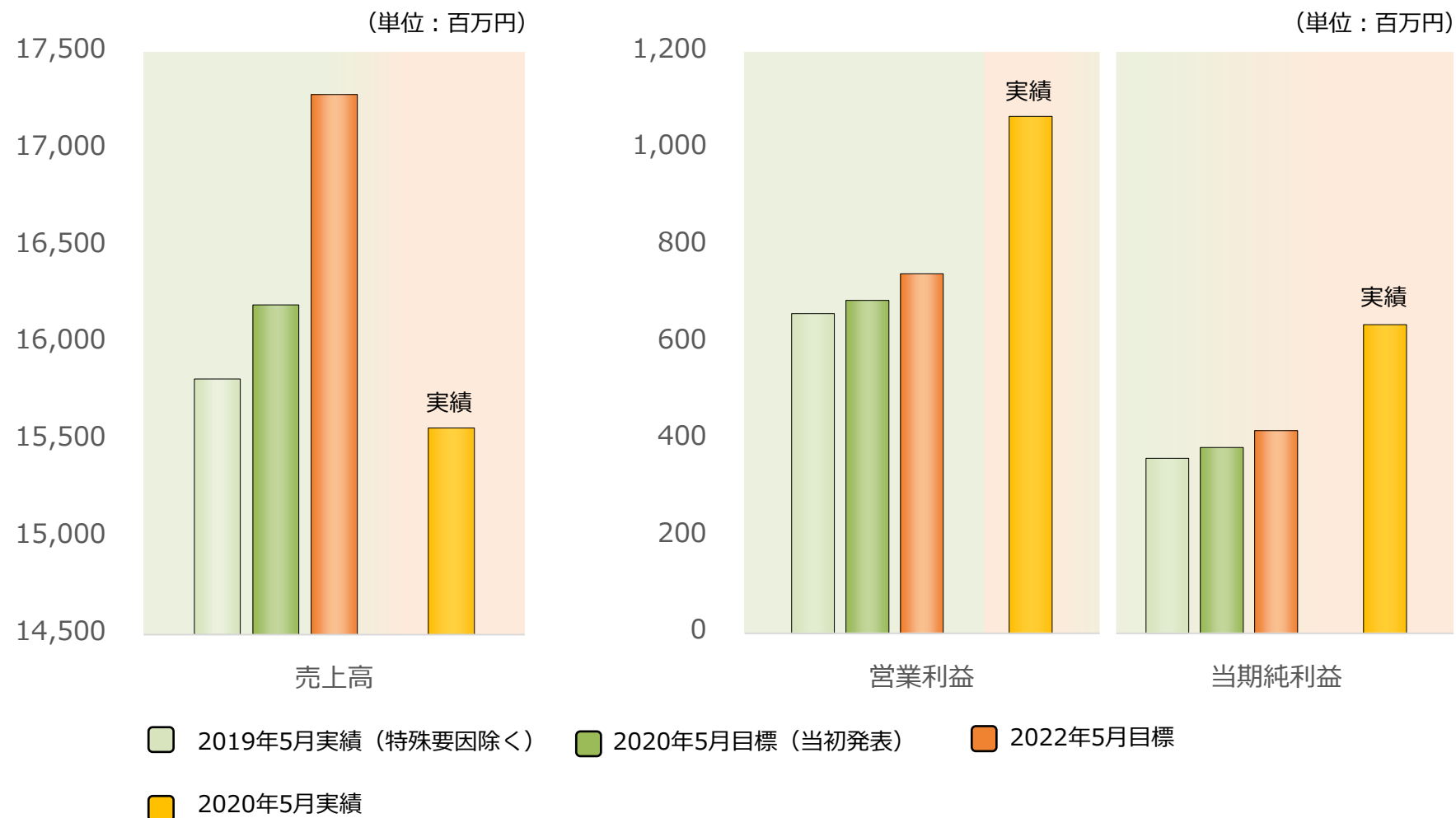


短期的な経営課題にしっかりと対応し安定した利益を確保すると同時に中長期的な経営課題をも見据えた施策を実施し持続的成長軌道に乗せる

前期公表した中期業績目標と実績



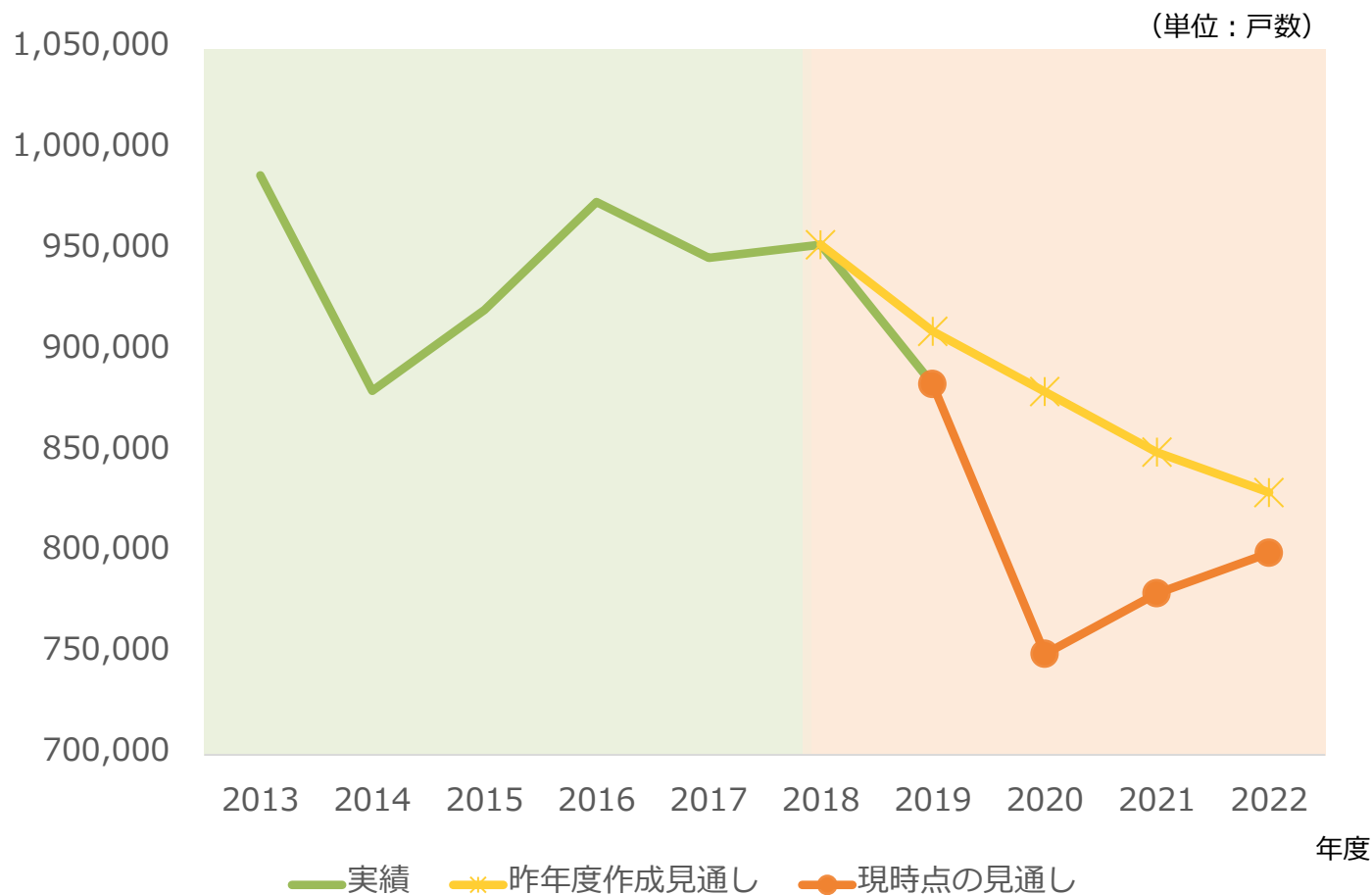
2020年5月期は目標に対して減収増益となり、営業利益・当期純利益については、初年度で2022年の目標を達成



市場見通し（新設住宅着工戸数）



新型コロナウイルスの影響で2020年度は大幅な下落を予想する
その後、昨年度策定したシナリオの水準まで回復すると想定するものの、3~4年間はかかると思われる



出所：国土交通省 住宅着工統計

参考：三菱UFJリサーチ&コンサルティング、野村総合研究所、日刊木材新聞 これらより当社作成

(単位：百万円)

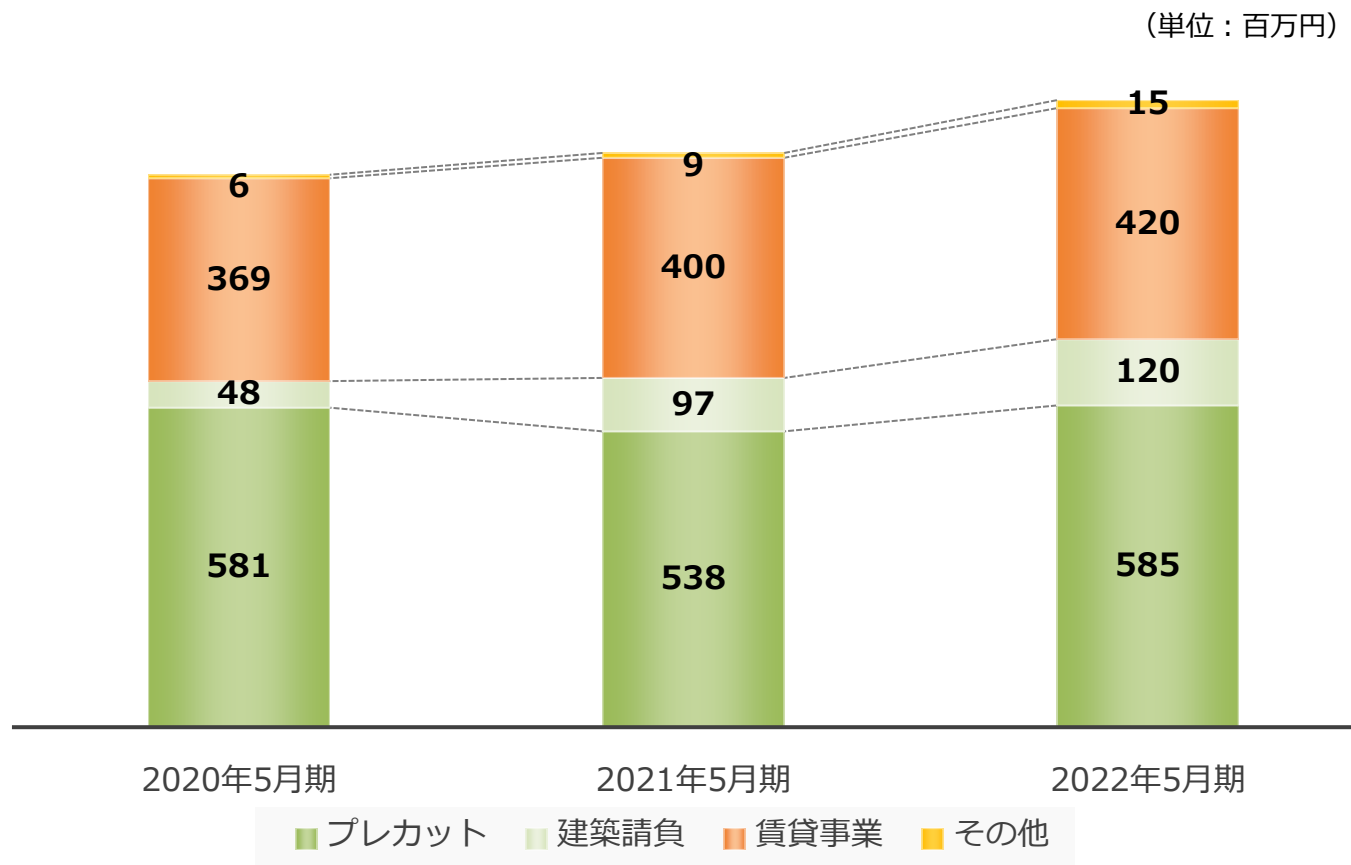
	2019/5	2020/5		2021/5	2022/5
	実績	実績		業績目標	業績目標
売上高	15,818	15,565	年平均成長率 0.78%	15,410	16,193
営業利益	661	1,068	年平均成長率 19.67%	1,089	1,133
当期純利益	362	638	年平均成長率 23.14%	640	676

※2019年5月は、特殊要因（消費税増税駆込み需要効果）を除く値で読み替えを実施

事業別業績見込み（営業利益）



新型コロナウイルスの影響でプレカット事業は一時的な影響を受けるものの、保育所を主体とした賃貸事業は堅調に推移する中で、建築請負事業とその他である不動産販売事業が改善し、中期経営計画2022の最終年度及びその後に向けて安定成長できる基盤整備構築を推進



①プレカット事業

外国人を中心とした職人を育成し建て方人員について2022年5月頃までに20~30名程度の体制を構築
職人不足が進む中で、プレカット販売の有力なオプションとなるように整備

ログハウスの加工について100%内製化を実現
住宅地の景観に溶け込む事が出来る角ログの加工に加えて、従来のログハウスファンの魅力でもある定期メンテナンスを不要としたり、日常生活をするのに使い勝手の良い内装を提供することにより、新たな市場を開拓する

営業部門の強化
新規取引先開拓と既存顧客対応を行う営業スタッフを分け目標と責任を明確化する事で、住宅市場が縮小する中でシェアを拡大する。また、女性だけの営業チームを構築し、女性ならではの視点ときめ細かな対応で販売体制を強化する

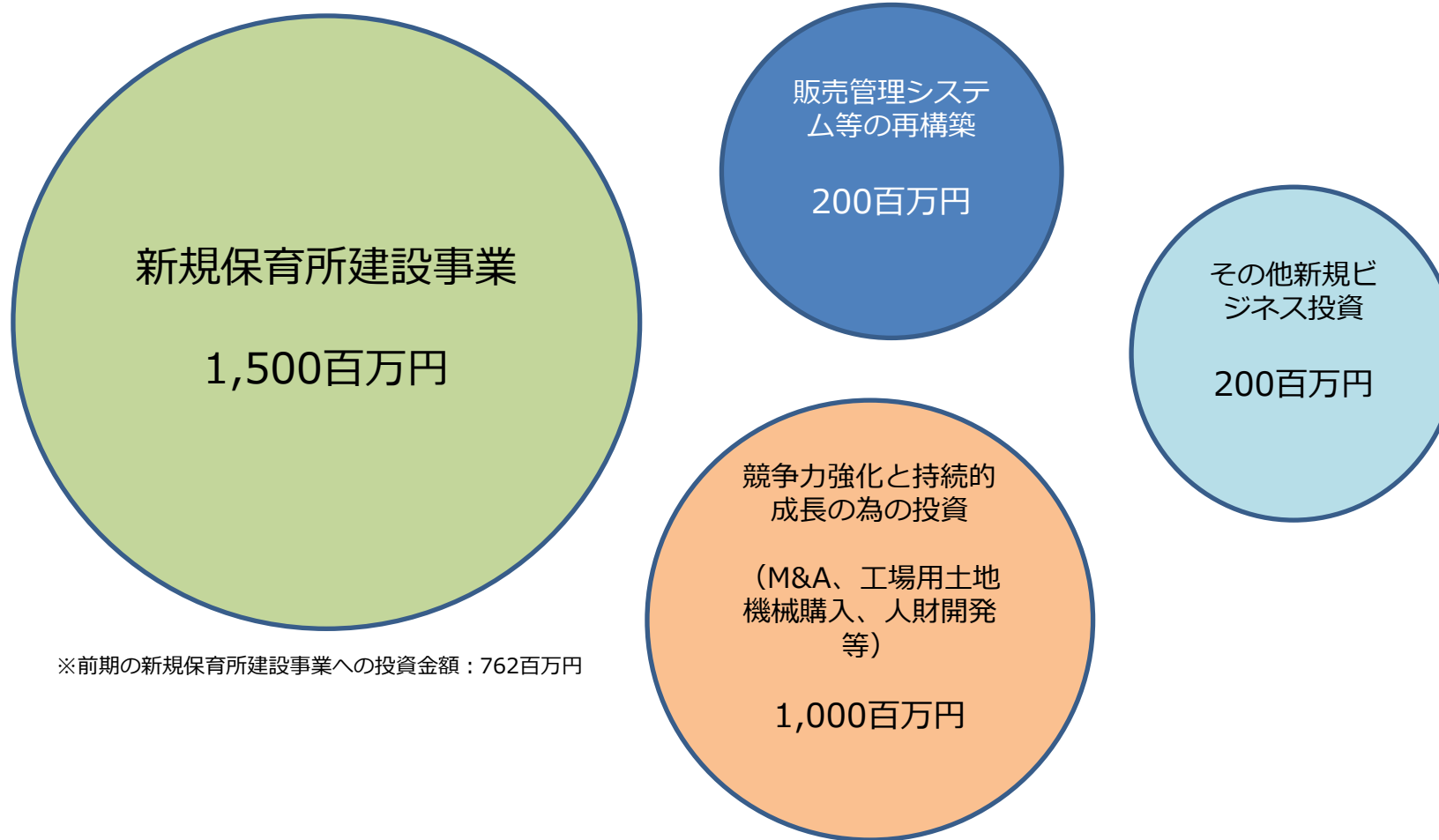
大型木造建築へ参入
一般流通材で最大スパン「40m」の無柱空間を実現できるATAハイブリッド構法の加工・プレカット
大型木造建築のメリットが認知され需要拡大が見込まれる中で対応可能な体制構築

物流の効率化
一日2便/台配送している運用を業務体制の見直しにより月600台から1,000台に拡大し、コスト面でもプレカット収益に貢献

②建築請負	<p>ログハウスと大型建築受注について、プレカットとのシナジー効果によるグループの利益向上</p> <p>保育園建築の実績を評価頂いている保育園運営会社等からの紹介などにより、他社の新規保育園計画からも建築請負受注</p> <p>住宅着工件数が落ち込む中で、リフォームニーズは高まる事が想定されるので、リフォームの請負体制整備</p>
③不動産賃貸事業	<p>東京都の待機児童数についてピークを越えたものの、希望する保育園に入園出来ない世帯は依然として多く、幼児教育・保育無償化が開始されたことなどから新規建設ニーズは引き続きあるため、既存で確定している15棟から2022年5月には20-25棟の拡大を目指す</p>
④その他不動産販売事業	<p>コロナ禍や近年の災害後のニューノーマルに向けて、新たな顧客ニーズを創出しながら、安定的に販売できる体制を構築する</p>

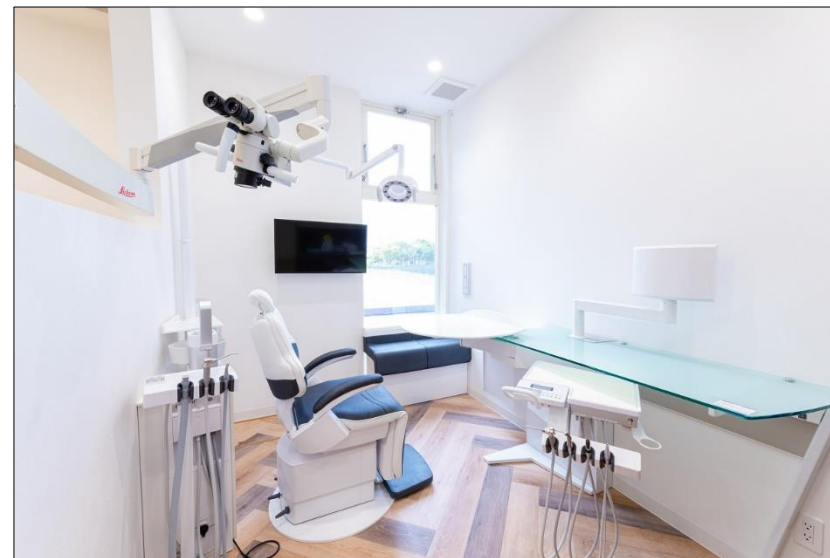
<p>⑤その他事業</p>	<p>おがくず販売の100%内製化を達成し、自社以外のおがくずについても回収・販売対応を行う事でリサイクルを促進するとともに売上にも貢献</p> <p>おがくず同様に端材についても、バイオマス用チップとして販売</p>
<p>⑥財務体質の改善</p>	<p>賃貸事業の借入期間を短期化することで財務体質の大幅な改善を目指す</p>
<p>⑦人財開発等</p>	<p>グループ各社と親和性の高い、良い案件があれば積極的にM&Aによる事業拡大を進めていく</p> <p>そこで重要になるのが、会社の改革とCSLのカルチャーを浸透させる事ができる人財の採用と育成となるため、採用の多様化と機動的な人員配置、教育体制の構築をフェーズ1で対応</p> <p>報酬制度を含む人事制度改革によりガバナンス強化とROAの改善</p>
<p>⑧ガバナンス強化</p>	<p>社内でプロジェクトチームを立ち上げコーポレートガバナンスコード全適用に十分対応できる体制を構築する</p>

2020年6月～2022年5月まで 2,900百万円の投資



※前期の新規保育所建設事業への投資金額：762百万円

(事業戦略の一例) 非住宅分野での躍進



これまで鉄骨造り、鉄筋コンクリート造りなどが主流だった大型の施設が、木造でも建築できるようになっています。

写真は一見しゃれた建物ですが、歯科医院です。株式会社シー・エス・ホームは、従来より保育園・介護施設などの大型施設の建築を得意としてきましたが、最近では歯科医院建築に連続でチャレンジしています。

人の健康と向き合う医療施設だからこそ、木のぬくもりが感じられる建物は、よい組合せだと考えています。

(事業戦略の一例) ログハウス機械フル装備



モルダー機械



👉 木材外周の形を作る



プレカット機械



👉 カットしたり穴を開けたり



ノッチ機械



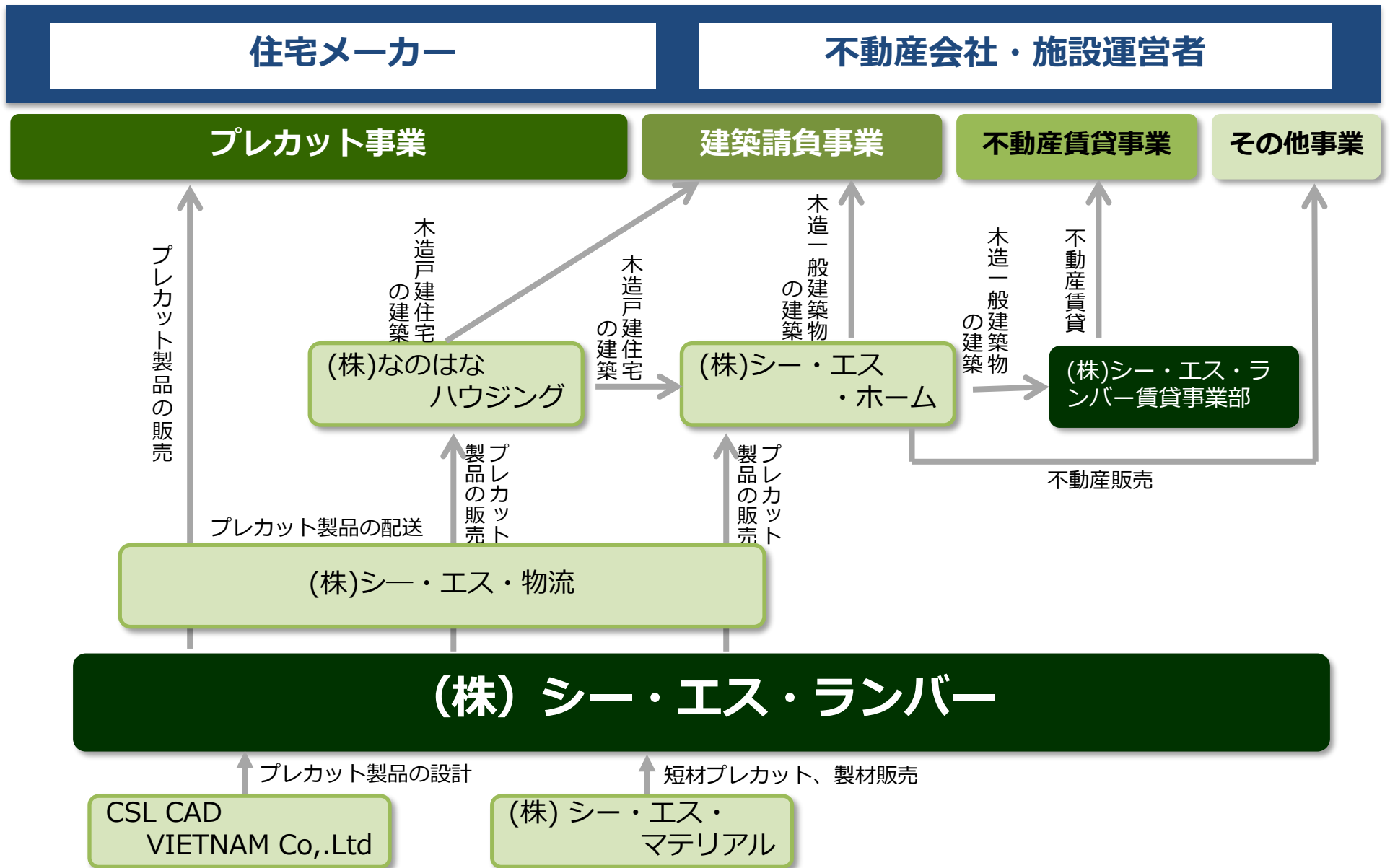
👉 材木を縦横に組み上げるため
にくびれを作る



ログハウス部材はそのほとんどが、海外でプレカットされた輸入品です。別荘地でしか需要がないからという理由で、日本でのプレカットはあまり広まりませんでした。

しかし都市部や郊外でも流行するきざしはあり、また需要は創造できると考え参入しました。ログ専用機械3点を揃え、この機械加工と職人技の手加工とを併せて、日々のプレカット注文に応じています。

1. 当社の概要
2. 2020年5月期決算概要
3. 2021年5月期業績予想
4. 中期経営計画2022の取組状況
5. **参考資料**



事業概要 (1) プレカット事業①



在来軸組工法における設計 (CAD)、木材のプレカット加工及び販売
ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売

「木造建築の主要2工法に対応」した加工・販売

在来軸組工法 (山武工場)

日本で最も主流の工法
基礎の上に木の土台を据えて、柱と柱を梁で水平につぎ、
対角線を筋交いで補触する

ISO9001 : 2015認定

登録証番号 : JQA-QM8720

登録活動範囲 :

木造住宅用プレカット材の
設計、製造



(財)日本住宅・木材技術センター認定

優良木質建材等認証

CSL高耐久性機械ブ

レカット部材 (2種-

ACQ)



認証番号 AQ-099-A1-1



ツーバイフォー工法 (東金工場)

枠状に組まれたツーバイ材に構造用合板を打ち付けた壁や
床 (面材) で支える「枠組み」構造
隙間が大変少なく、気密性・防音性に優れている

JAS認定工場 (全国木材検査・研究協会)

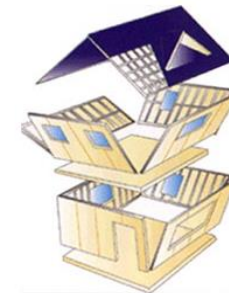
認定番号 : JLIRA-A-016

認定品目 :

枠組壁工法構造用製材

認定区分 :

人工乾燥枠組壁工法構造用製材



北欧などからの製品輸入が中心のログハウスプレカット事業に参入 (2019)



カントリーテイストのある木造家屋が都市部住宅街にも建ち始めている傾向を捉え、ログハウスメーカーとタイアップしてプレカットを開始
在来軸組工法、ツーバイフォー工法の技術も必要とされており、親和性大

プレカット事業を軸に、建築請負事業も展開している

ATAハイブリッドトラス構法のプレカット事業に参入 (2020)

「無柱大空間を可能にした非住宅・中大規模木造トラス構法」を生んだ株式会社ATA (アタ社) の提携プレカット工場となる

商業・工場・スポーツ施設など建物用途は多岐多様、時代の流れは鉄骨から木造へ



事業概要 (2) 建築請負事業



木造戸建住宅・木造一般建築物の建築（大型木造施設等）の建築請負

当社のプレカット製品を仕入れて、
木造住宅・保育所等の大型木造施設を合わせ
年間約200棟を施工



茂原市介護施設

- ・構造：木造2階建
- ・延床：996.26㎡
- ・居室数：23室



なのはなモデルハウスA棟

事業概要 (3) 不動産賃貸事業



長期安定契約を基本方針とした不動産賃貸及び管理



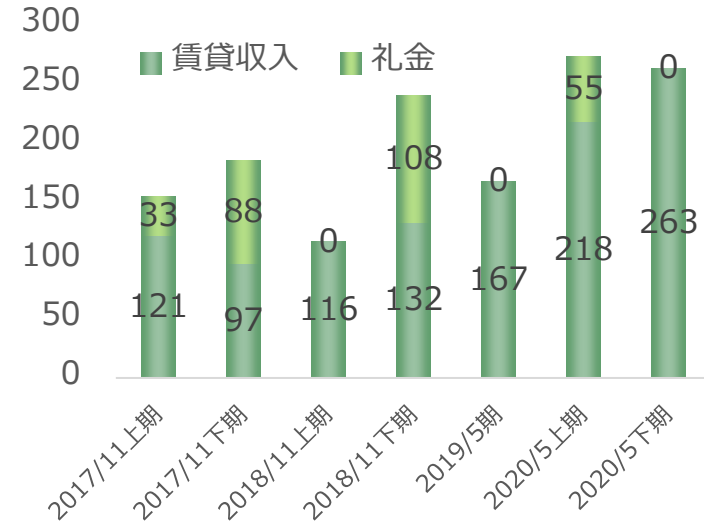
保育所 (中野区)

- ・構造：木造 2 階建
- ・土地：483.41㎡
- ・延床：357.74㎡
- ・定員数：63名
- ・契約期間：2020.1.1
~2040.3.31

2017年に賃貸物件の一部を売却したため、2017年下期において賃貸収入が減少

(単位：百万円)

賃貸収入の推移



保育所 (文京区)

- ・構造：鉄骨造 3 階建
- ・土地：254.18㎡
- ・延床：378.00㎡
- ・定員数：59名
- ・契約期間：2019.11.1
~2040.3.31

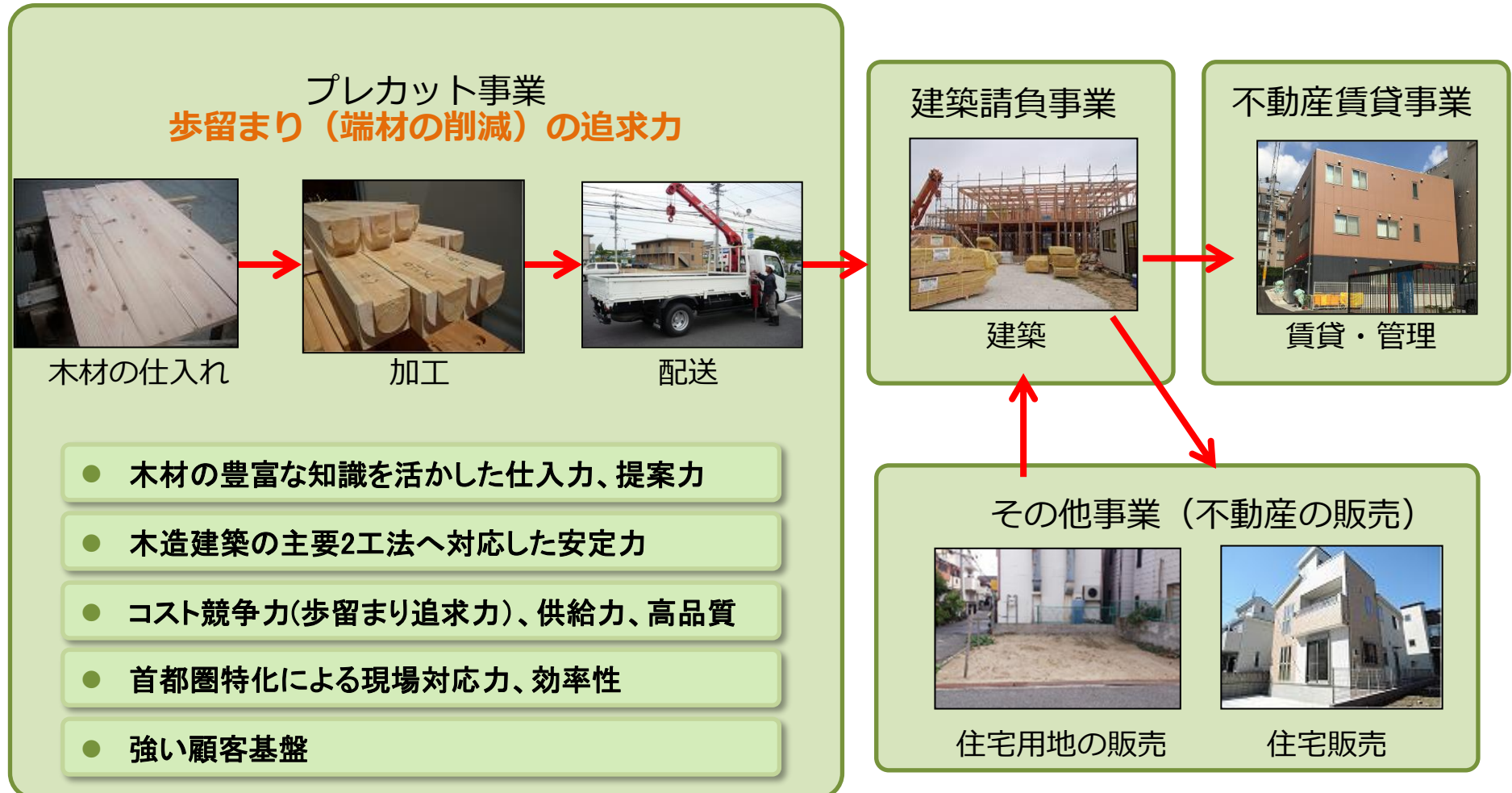


保育所 (台東区)

- ・構造：鉄骨造 4 階建
- ・土地：155.34㎡
- ・延床：387.44㎡
- ・定員数：60名
- ・契約期間：2018.10.1
~2034.3.31

付加価値を創造する木造建築のトータルサービス

- 材木店経営で培った木材（業界）に関する豊富な知識を活かし、木材の仕入れから加工、建築、賃貸・販売までグループ内で行うことで、付加価値を創造



当社の強み（2）プレカット事業（在来軸組工法 山武工場）



ピッキングシステムと新式プレカット加工ラインの導入により、**高い歩留まり・生産性を実現**

ピッキングシステム（邸別ピッキング用自動倉庫）

更なる「歩留まり追求」を目的に導入

⇒ **歩留まりが約10%向上**

- ・コンピュータ制御による在庫管理技術の向上に伴い、必要な木材のより適切な仕入れが可能となり、**材料費を削減**
- ・材料の木材の入庫、出庫の自動化により、**生産性も向上**



新式プレカット加工ライン



- ・加工能力向上に加え、従来難しかった複雑な加工も可能になり機械化率が上昇し、**生産性も向上**
- ・製品の**品質安定化**にも貢献

全部位 (壁・床・屋根) のパネルを加工し、現場に配送

- ・ 建築現場における工数が大幅に削減される他、高度技術者も不要となり、**付加価値の高い製品**を提供



壁パネル



床パネル



屋根パネル

大量かつ安定供給が可能な東金工場

- ・ 広大な敷地 (62,467㎡) の東金工場に設備を集約し、パネルの**大量生産・保管、安定供給体制**を確保
- ・ 東金インターから約10分の好立地で、**効率化された自社配送**

機械化が進んだ生産ライン

- ・ 在来軸組工法で培ったノウハウを活かし、**機械化を推進**
複雑な形状の加工においても**機械化を進め、高品質、高い生産性を確保**



マルチカットライン
(木材のカット)



マルチカット製品



パネルシージングライン
(自動釘打ちマシン)

ベトナム子会社でのCAD設計

標準的な建物の設計を行い、**コスト低減**

- クロス (直切り) カットライン 2ライン
- マルチカットライン 2ライン
- パネルシージングライン 2ライン

当社の強み (4) プレカット事業 (首都圏に特化)

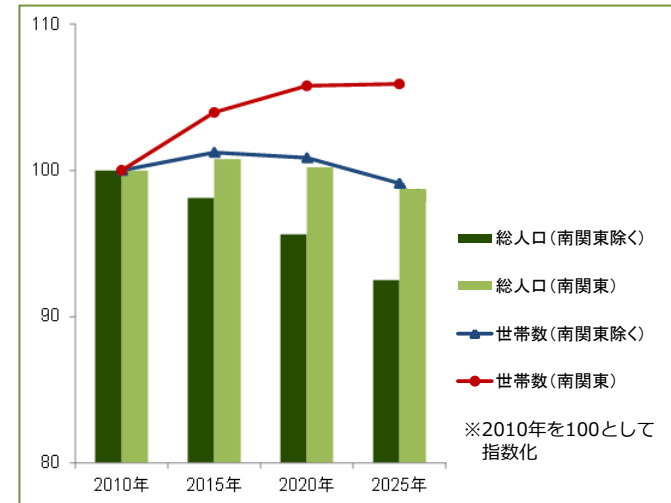


人口が集中する首都圏(1都4県)に絞った生産・営業拠点



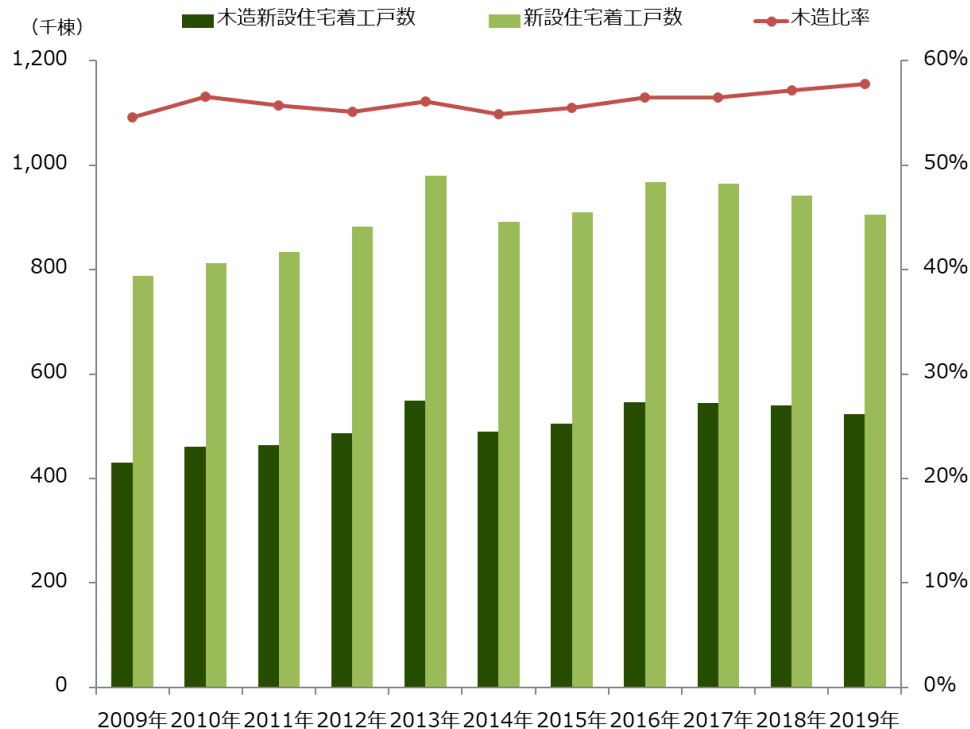
展開エリアを絞ることにより

- ・お客様のニーズへの迅速な対応 (企画・設計・アフターサービス)
 - ・営業効率
 - ・配送効率
- 生産性向上による
コスト競争力



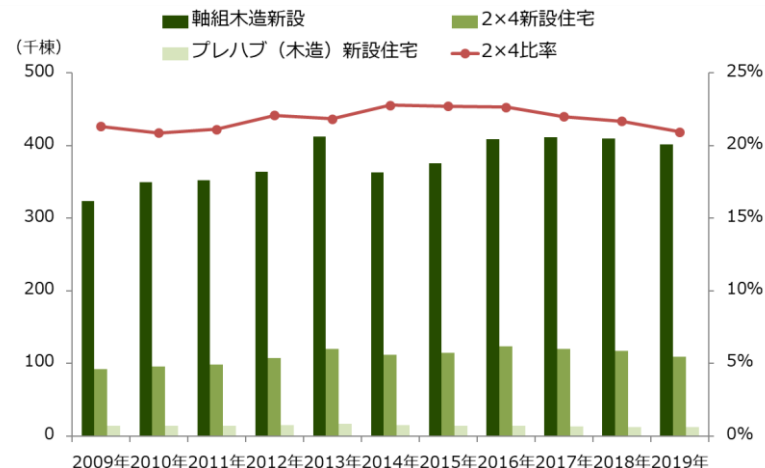
出所：国立社会保障・人口問題研究所「全国人口将来推計」より当社作成

新設住宅着工戸数に占める木造新設住宅着工戸数の割合



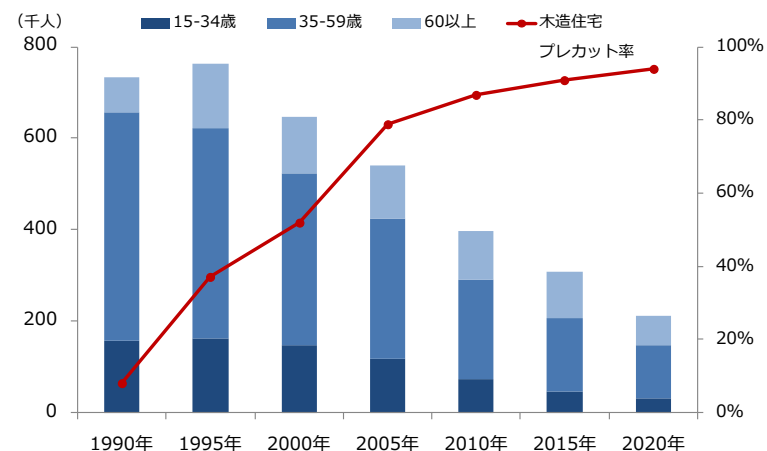
出所：国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課資料より当社作成

工法別木造新設住宅着工戸数とツーバイフォー比率



出所：国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課資料より当社作成

年齢別大工就業者数と軸組木造住宅のプレカット率

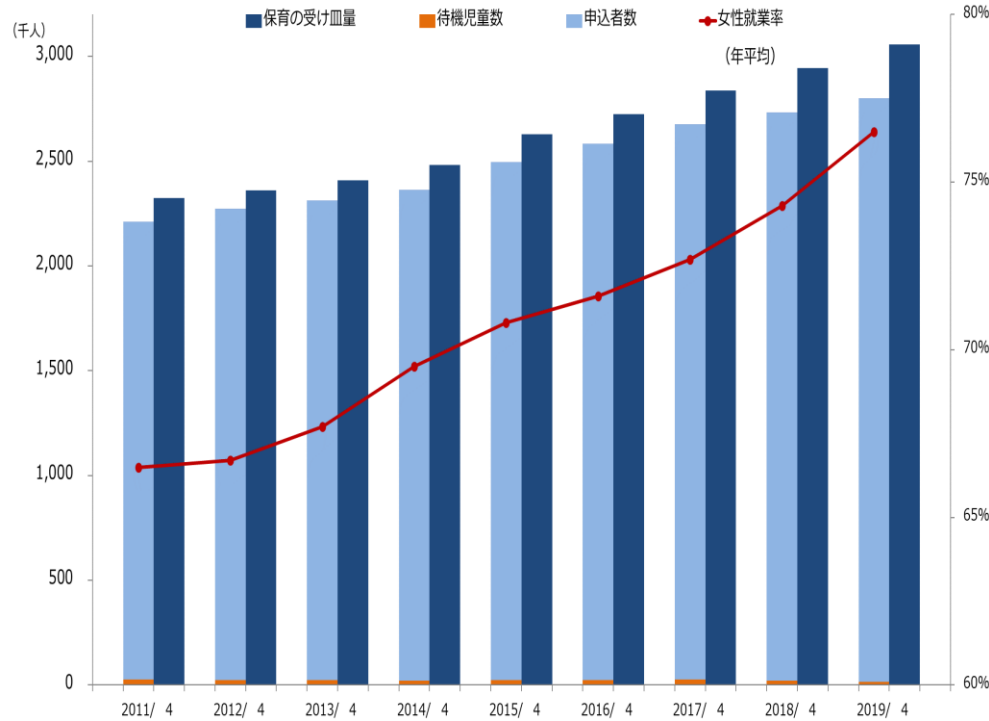


出所：総務省「国勢調査」、一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会、住環境価値向上事業協同組合「大工の育成と雇用形態 平成25年度」一般社団法人 木を活かす建築推進協議会より当社作成

待機児童数の状況

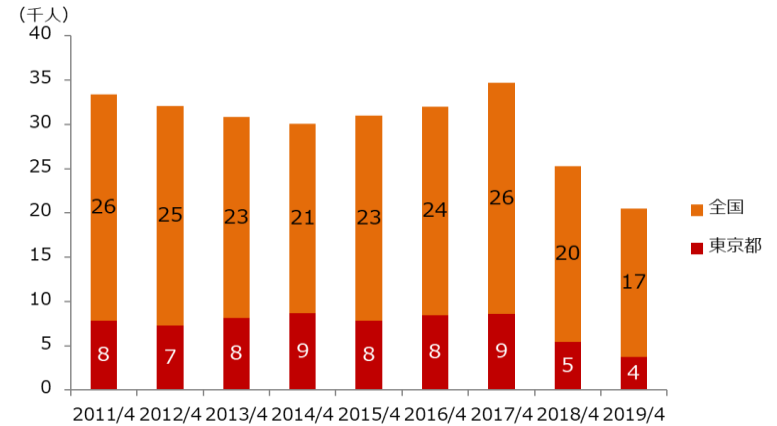


女性就業率、保育所受け皿量、待機児童数の推移



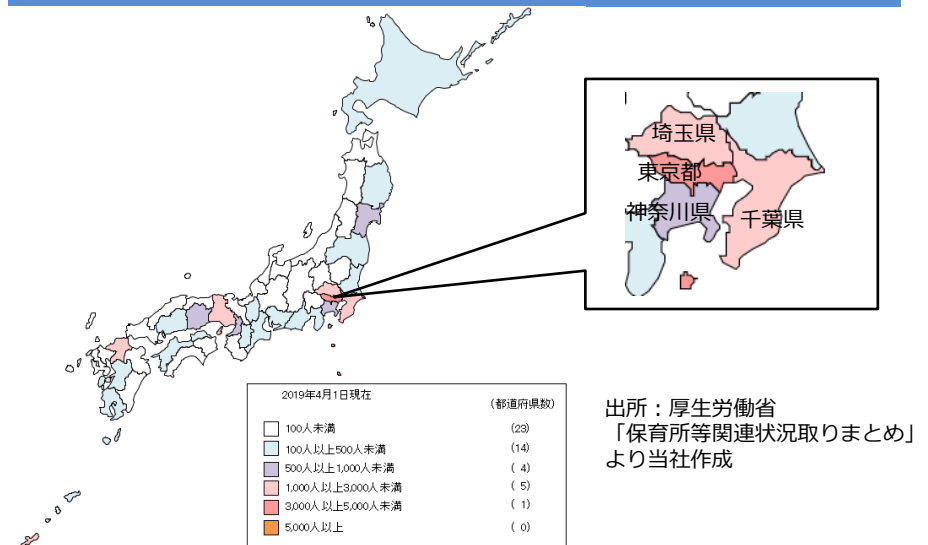
出所：厚生労働省「待機児童及び待機児童解消加速化プランの状況について」より当社作成

全国待機児童数に占める東京都の割合



出所：都福祉保健局公表資料「保育サービス利用状況等について」より当社作成

地域別待機児童数の状況



出所：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」より当社作成

木材資源の有効活用による環境保全活動を中心に推進

環境 (Environment)

木材資源に関する3R活動を推進

- ① **Reduce (削減)** :
木材をプレカット加工する際に発生する端材の量を削減
例) ムダな端材が発生しないような寸法の木材を調達
- ② **Reuse (再利用)** :
端材を別の製品の材料として再利用
例) 構造材や端柄材の加工の際に発生した端材を短材プレカットの材料として利用
- ③ **Recycle (再資源化)** :
端材を再生資源として再利用
例) プレカット製品の材料として再利用することができない端材を製紙用、バイオマス燃料用のウッドチップとして加工

木材のグリーン調達

- ・ 合法木材供給事業者認定取得 (東金工場、山武工場)

木材は、二酸化炭素 (CO₂) を固定化させるため、木造住宅のプレカット製品の製造やその他の木材資源の有効活用を通じて、**CO₂排出量削減などの環境保全に貢献**

社会 (Social)

製品・サービスの品質保証の推進

- ・ ISO9001の取得
(「木材住宅プレカット材の設計、製造」など)
- ・ JAS認定工場 (東金工場)
- ・ 優良木質建材等認証 (AQ認証)
(山武工場、シー・エス・マテリアル)

少子化・待機児童対策への貢献

- ・ 保育所の賃貸事業を都内を中心に積極的に展開、施設数も年々増加

企業統治 (Governance)

社内での啓蒙活動の推進

- ・ コンプライアンス教育の実施
- ・ 内部通報制度
(コンプライアンス・ヘルプラインの設置)

株式会社シー・エス・ランバー

【お問い合わせ先】

株式会社シー・エス・ランバー

取締役 管理本部長 鈴木 正裕

TEL 043-213-8810

FAX 043-213-8819

URL <https://www.c-s-lumber.co.jp>

<ご案内>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご利用者自身の判断において行われるようお願い申し上げます。

なお、いかなる目的であれ、本資料を当社の許可なく複写複製等を行わないようお願い申し上げます。